

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171500321		
法人名	(有)ケアコスモス		
事業所名	グループホームほのぼの		
所在地	岐阜県中津川市千旦林2111-2		
自己評価作成日	平成21年7月25日	評価結果市町村受理日	平成21年12月8日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2171500321&amp;SCD=320">http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2171500321&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成21年10月17日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市街から離れた、静かでのんびりした環境にあります。平地なので、散歩がしやすく、地域の皆さんとも親しくしていただいています。そんな地域のみなさんの作った野菜を季節ごとに届けてくださるので、野菜中心の食事になっています。そして、昔懐かしい郷土料理のような食事も大切に取入れていますので利用者の方々には喜ばれています。昔からの食事の準備など、先輩である利用者の指導をもらいながら料理をします。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

恵那の山々が、絵画の様に見渡せる絶好のロケーションがあり、散歩や地域のイベントに参加しやすい条件に恵まれている。職員も地元の方で、地域との連携が取りやすい。また、職員自らが手作りのパンを作ったりするなど、食事やお菓子など「食の楽しみ」を大切にするなど、毎日の生活の楽しみづくりや馴染みの生活が継続できる様、工夫や努力がされている。運営推進会議に参加しやすい工夫や計画がなされ、参加できない家族から積極的に意見や要望を聞き出し、その課題を取り出し、反映・実践している。更に、ホーム独自の相談員も運営推進会議に参加してもらい、改善に向けて積極的である。また、毎月1～2回避難訓練を行い、安全対策に積極的である。

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に掲示し、いつも目に入る様にして、意識を高めている。	「共に行動する」という理念を、ホーム6箇所に掲示して、理念が実践できるように職員一人ひとりが絶えず意識して、ケアに取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時、又お祭り等、挨拶から始まり、地域参加も少しずつ出来ている。	日常的に地域の方と話をしたりあいさつをしている。地域のお祭りにはホームの職員も前日から準備に参加している。ホームの夏祭りは、家族、地域の方の参加を得て、100人集まる大イベントとなっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キヤラバンメイトへの参加や、サポ-タ-の養成等をしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、家族や地域の人々と現状を含めた報告意見交換をしている	家族全員に郵送で参加を呼びかけている。市役所職員、民生委員、事業所独自の相談員、家族と共に2ヶ月に1回開催している。意見を言いやすい雰囲気作りをしている。会議と併行して、食事会などを計画している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険室の担当の方の推進会議への参加、又月1回の介護相談員の訪問。	市の福祉計画の説明会などに積極的に参加をしている。また、市の提案で他のグループホームへの見学、勉強会の参加、老人会で認知症サポーター養成講座の開催するなど、関係を密に行っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関等施錠に関しては危険と判断した時には家人の了解を得て行なっている。	身体拘束をしないケアの勉強会に参加をして、実践できるよう努力はされている。しかし、外出願望の利用者があり、全利用者の家族の承諾を得て、玄関の施錠がしてある。	できる限り玄関の施錠をしない工夫をし、地域の方などの協力が得られる様、もっといろいろな工夫をして、話し合いがされる事を期待する。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会への参加。		

グループホーム ほのぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後の課題としている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度の会話を大切にし、電話等でも連絡をとる様にしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議で意見をもらえる様な環境作りをしたり、個人的にも話しかけている。	運営推進会議の他に、「ほのぼのだより」をだして家族からの意見や提案を聞いている。また、参加できない利用者同士の話から課題を見つけ、取り上げたテーマはミーティングに時に話し合い、実践の努力をしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス等(ミーティング含む)で現状の説明を無理ない協力を得ながら反映させている。	毎朝30分ほどかけてミーティングを行い、現状の報告をすると共に、職員が意見や提案が言いやすい雰囲気を作りをして、実践に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力、向上心、実績を大切にし、給与にも出来る限りつなげている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には可能な限り参加している。施設内の研修・勉強はこれからの課題。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中津川市内のグル-ブホ-ム同志の意見交換をしたり、又、グル-ブホ-ム協議会内での相互訪問をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	その人を知るとい理念の様に、先ず利用者をしっかりみながら、対応している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、後、家人のメンタルな部分のケアが必要であれば、安心してもらい、徐々に協力してもらっている。		
17		サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	15・16と同じ。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人が出来ることをやってもらえるように、接している(強制ではなくて)。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共に支えなければ、プランの施行や継続は難しい。		
20	(8)	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで使用していた馴染みの物があれば、部屋に置いてもらい、友人等の訪問も歓迎している。	月に1回、馴染みの場所や見慣れた場所に行く回想療法を取りいれている。利用者に懐かしがられ、一生懸命に説明をされる方もあり、話がつきない。また、利用者の友人が頻りに訪問され、昔話しに花が咲いている。	
21		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ときには、席順を変えたり、くつろぐイスの配置も考慮している。		

グループホーム ほのぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の様子はさしさわりのない程度に対応させてもらっている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ほとんどの利用者が会話が出来るので、意志の尊重をしている。	言葉かけに注意をして、自己決定ができるようにしている。理念の「行動を共に」を心がけて、行動や話しの内容から意向や希望を把握し、食の希望なども取り入れている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	なるべく取り入れる様にしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	詳細が紙面上にはないが、スタッフ1人1人は把握していて対応に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝のミーティング、月のカンファレンス、連絡ノート等で話し合い、必要時は、家人、主治医とも連絡をとり、プラン立案している。	援助内容を細かく、分かりやすく作成している。朝のミーティング、月に1回の会議、毎日の記録基に3ヶ月に1回見直しを行い、家族、主治医からも意見をもらっている。必要に応じて見直しを行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	26と同じ。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時その人に合ったケアサービスを出せる限り行なえる様にしている。		

グループホーム ほのぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	徐々にすすめている。ボランティア・健康体操等。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどが本人のかかりつけ医で受診してもらっている。	全員が入居前からのかかりつけ医に、家族の同行のもと受診している。家族同行が不可能時は、職員が代行し、かかりつけ医の受診結果を家族から報告を受けて、病状の情報を共有している。また、協力医との関係も密にしている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフの中に看護師がいて、必要時適切な指示を受けられる体制がある。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリ - 紹介状等を渡し、必要時には直接申し送りに行く。入院後の連絡もとる。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に概ねのタ - ミナルの方向性は聞いている。現在できることは伝え、今後に対応(看取り)等の体制は課題。	入居時、家族の方、本人の思いなどを聞き、話し合いをしている。終末期を迎えた経験を活かして、段階ごとに、不安なくチームで支援ができるよう、勉強会をし、マニュアルを作成するなどの準備をしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡時の仕方や、指示受け、その後の対応や訓練の計画。救急隊の指導(受講)はしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1～2回の避難訓練を実施。	消防署の指導を得て、マニュアルを作成した。月に1回～2回避難訓練をして、消火器の使い方などを全職員は身につけている。しかし、地域の方の協力体制の確保がされていない。	マニュアルの説明のみではなく、実際に、地域の方も一緒に避難訓練などに参加していただけるような働きかけを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の生きてきた背景を考慮し、言葉の使い方や、出し方にも注意している。	「穏やかに」を基本として、プライドを損ねない言葉かけや「～しませんか？」と自己決定がしやすいように、対応に努めている。また、排泄に失敗した時も、誇りを尊重した声かけに努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	23と同じ。又、本人の言葉を引き出す様に心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべくその様に心掛け無理強はしない。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	危険がない限り、自由にしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事の下ごしらえから、片付け、イベント時の(すし詰め)等できることを一緒に行なってもらっている。	出来る方には、日常的に準備や片付けを手伝ってもらっている。食のイベントを楽しむ時は、出来る範囲で皆と一緒に作る。また、職員がパンを手作りなど、「食への楽しみ」が持てるように工夫をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の少ない場合、チェック表の活用、形態の工夫等を行い、摂取してもらえる様に考える。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	感染防止のうがいはじめ、口臭にも気を付けながら、口腔ケアを行い介助している。		

グループホーム ほのぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意の有無、パターンを把握し、時間毎のトイレ誘導を行なっている。	毎日、排泄チェック表をつけて、段階ごとに家族に支援方法を相談をしている。排泄が利用者にとって精神的負担とならないように配慮をしている。夜間のみポータブルトイレを使用し、日中は声かけに留意しながらトイレ誘導をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食事とし、可能な限り、散歩に出かけたり、水分をしっかりとってもらっている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日、時間は決まっている。必要に応じては、その限りではない。安全面を重視している。	出来る限り湯船に浸かって頂きたいとの思いから、浴槽の出入りが困難な方には、2人に対応している。しかし、入浴ができる日、時間が限られている。	入浴の時間、回数など、利用者の習慣や希望などに対応ができるよう期待する。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホールの大きなソファを設置、いつでもくつろげる空間を作っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	必ず確認している。(担当を決めている)変化があれば服用前に看護師の指示をあおぐ。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人が得意としている事や、趣味も考慮しながら生活してもらっている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家人へ呼びかけての外出・外泊・その他、ドライブ、散歩、買い物の実施。	天気が良い日は近くの喫茶店や散策に出かけている。また、トイレの様子・安全性を下見し、季節ごとに、皆で作ったお弁当を持参し、懐かしい場所に出かけたり、地歌舞伎の鑑賞などの支援をしている。	



グループホーム ほのぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には「なくなってもよい」事を了解の上で本人が所持することもある。その他、希望時は一緒に買い物に行く。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家人の了解を得た上で、手紙の内容を確認をする事もある。基本的には自由にできる様になっている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温の管理、希望に応じた対応を心掛けている。季節毎に違う花等、さりげなく飾られるスタッフがいる。	廊下には皆で作った季節のドライフラワー、習字などを貼って季節感を取り入れている。テレビの前にソファー・椅子を置き、皆と一緒に過ごす場所を作るとともに、リビングの端の方にもテーブル、ソファーを置き、ゆったりした一人の時間も作れるようにしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	21と同じ。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	20と同じ。(家人と相談しながら)	馴染みの家具や思い出の写真や神棚などを持ち込み、プライバシーを大切にしながら、その人らしい居心地の良い居室づくりをしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合わせての環境・用具の準備をしている。		